

7月6日。

朝から曇り。夜は大雨。蒸し暑い一日だった。

今日から学校に新しい担任の先生が来た。

前の担任のおじいちゃんとは全然違う、若くて、ちょっと頼りなさそうだけど…

優しい男の先生だった。

自習のときに、学級委員として学校を案内。

その後、放課後になると大雨が降ってきて、先生と一緒にバス停へ。

その時の雨のせいで、私の下着、透けちゃってたみたいで

先生は、おちんちんが勃っちゃったみたい……

男の人と話すの自体、ほとんど初めてだから、正直戸惑ったけど……

こんな年下の女の子の身体にも興奮するんだって思ったら、なんだかドキドキしてきて……私自身、「そういうこと」への興味もあっ

たのかもしれない。

勇気を出して、先生にお願いして、おちんちんを見せてもらった。

初めて見たおちんちんは……「ぴんっ」て、固くなってて、反り返ってて…

たくましいけどなんだか切なそうだった。

目の前にいるのは「男の人」なんだなって…心臓がバクバク言ってた。

先生も最初は戸惑ってたけど、だんだんエッチな気持ちになっちゃったみたいで……

おっぱいを触らせて、手で、スッキリさせるために「ヌイテ」あげた。

おちんちんは、シコシコ擦ってあげると、手の中で震えて…

だんだんびくびく、おっきくなって行って……（正直、けっこうかわいかった）

やがて先生は、小さいうめき声を出して、私の手の中に射精した。

あんな風に出てくるんだ……びゅびゅって、勢いよく。

初めて見た精子は、白くて、ドロっとしてて、粘っこくて、変な匂い……

ホントにこんなので、赤ちゃんができるの？って…なんか不思議だった。

でも、生徒と先生がこんなこと…さすがにまずいよね。

なんであんなことしちゃったんだろう……？

フウカとアヤノには、絶対に内緒にしないと……

でも、先生はとても気持ちよさそうだった。

「ありがとう」って言うてくれて、優しく頭を撫でられて、嬉しかった。

……明日が楽しみだな。こんな感覚、初めてかも。

うまく言えないけど……新しい何かが、始まりそうな感じがしてる。

先生のおかげで……

7日9日。晴れ。

新しく来た先生に部活のお手伝いをしてもらった。

今までひとりだったから、なんか新鮮。楽しい。

先生はすごく優しい。話していると、なんかふわふわしてくる。

マッサージを手伝ってもらったんだけど、途中で先生が苦しそうにしてて焦った。

なんか、ちんちんがおっきくなっちゃったらしい。

男が、エッチな気持ちになるとそうなるのは、聞いたことくらいはあるけど……

現実感がなかったし、先生が苦しそうなのを見ると私も切なくなってきたから、

ちんちんを舐めてあげた。

口の中のちんちんは、固くて、でもぐにゃぐにゃもしてて…ヘンな味。

汗と、先っぽから出てくるなんか生臭い汁で…頭がくらくらした。

だんだんお腹の下の方が熱くなってきたけど、なせか先生には言えなかった。

しばらく舐めてたら、先生は、私の口の中で「精子」を出した。

どくどく～って。

精子も、すっごくヘンな味。あとノドにつっかえる。

でも全部飲んじゃった。

先生、ちょっと嬉しそうだった。苦しくなくなって、スッキリしたみたい。

もっとエッチも、してあげたかったけど……私は経験がないから。

先生に嫌われたくないので、やめといた。

そういえば、途中でヒナミが覗いてた気がする。

ま…いっか。

やっぱり、お腹が、熱い……

また明日も、先生に会いたいな……

③

7月12日。晴れ。

今日私は、処女を喪失した。

しかも初めてのセックスしたその日のうちに、親友二人も加わって、4人でセックスした。

相手は、新しく赴任してきた担任の先生。

放課後、いつものように図書室で自慰に耽っていたら、彼がやってきたので

正直少し慌ててしまった。

でも先生はそんな私に、気さくに話しかけてきてくれて。

私の悩みを、真面目に聞いてくれて……優しく笑ってくれて。

一緒にいたら、どんどん胸が高鳴っていくのを感じた。

そして…今日のことを振り返ってみて、改めて思った。

きっと…私はどうしようもない変態女なんだろうと思う。

毎日のように飽きもせず官能小説を読んでいたからか、日に日に性的な好奇心が強くなってたのはなんとなく気付いてたけど。

まさか、先生と……ううん、あの二人、ヒナミと、フウカとも。

あんなことになるなんて……

私たちは、3人仲良くかわるがわる先生に犯してもらった。

おまんこの感触を、比べてもらったりした。

先生はとにかくすごかった。何度射精しても、全然萎えなかった。

何度も、何度も、何度も……日が暮れて、真っ暗になるまで。

ケダモノみたいに、セックスして、セックスして、交尾して、セックスした。

気持ちよすぎて、正直よく覚えてないけど……

セックスのとき、普段の引っ込み思案で真面目な私は、どこにもいなかった。

先生のおちんちんをたくさんしゃぶって、身体を触られて、セックスしてもらった。

ケダモノみたいに下品な声を上げて…数えきれないくらい絶頂した。

お腹の奥から溢れてくるくらい、何度も子宮に注いでもらって、

幸せだった。

ああ……また4人で、セックスしたい。頭が真っ白になって、気を失うまで。

やっぱり…私はどうしようもない変態女なんだと思う。

でも……先生のことも、みんなのことも、大好き。

だからまた今度…みんなを誘ってみよう。

そして今度は、朝まで……